

十勝広尾 鈴木牧場、「十勝オーガニック牛乳」発売！ 日本初！唯一無二！オーガニック・グラスフェッド・A2ミルク・ノンホモ低温殺菌の牛乳



2023年12月8日(金)、北海道十勝・広尾町にある鈴木牧場がスーパープレミアムな【十勝オーガニック牛乳】を発売する。900ml 2700円(税込)、200ml 700円(税込)

- オーガニック・グラスフェッド(有機牧草と放牧で牛を飼育)
- ホルモン剤、ワクチン、駆虫剤、遺伝子組換え飼料不使用
- 搾りたて30分以内の生乳を、63℃30分間低温殺菌(ノンホモ)
- お腹がゴロゴロなりにくいやさしい牛乳「A2ミルク」

世界情勢や地球環境への見通しが難しくなる中、「持続可能な農業」や「食料安全保障」の観点から、化学肥料や農薬、輸入配合飼料を使わない「オーガニック」、穀物飼料を一切使わない牧草と放牧で牛を飼育する「グラスフェッド」は、未来の人類にとって重要な酪農スタイルに位置付けられるはずと考えました。またお腹がゴロゴロなりにくいやさしい牛乳「A2ミルク」は世界のネクストトレンドです。

そして、牛乳は命を繋ぐ飲みものだと感じています。この世の生き物はすべて、次の世代のために生きている。命というものは今ここにあるものだけでなく、前の世代から託され、次の世代へと受け継いでいくものです。母牛によって子牛のために作られる乳は、私たち哺乳類にとって命をつなぐ飲みものです。人間が食べられない、そして再生可能な資源である牧草で健康な牛を飼い、安心安全おいしい牛乳で人を幸福(口福)にできる。みなさんにもそんな牛乳をおすすめしたい。このような想いから十勝オーガニック牛乳を全国へお届けしたいと思い、当牧場の取り組みや商品を知ってもらい、年末年始のギフトや家族が集まる場所で飲んでもらいたく、ぜひメディアで取り上げていただきたいと思います。私たちは牧場から健康と幸せを提供し、食卓を豊かにし、次の世代の命を育んでいきます。



【現在の鈴木牧場となるまでのストーリー】

鈴木牧場4代目鈴木敏文は、20代まで牛も牛乳も好きではなかったし、酪農に関する志もありませんでした。牛を第一にした経営への転換を決意したのは、2008年のこと。立て続けに二度、家畜伝染病が発生し、多くの牛が命を落としたことがきっかけでした。家畜獣医師で妻のなつきからアドバイスを受け「病気になったら治療をすればいい」、という考え方を見直し、「病気にならないための飼育（健康）」を徹底することにしました。ヒントとなったのは、野生のシカ。彼らは山の草木しか食べていないのに、毛艶は美しく、筋肉も脂肪もしっかりあって健康なのです。野生動物のように自然に近い環境で飼育をしようという方針を定めました。まず、牛のエサになる牧草を無農薬・無化学肥料で育てることにしました。3年かけて発酵型の堆肥と尿を畑に還元し続けたのです。牛の出したふん尿という良い肥料を得た牧草は、ぐんぐん元気に。その牧草を食べた牛が、良い堆肥を生む。好循環が出来上がりました。循環型酪農のもと、持続可能な農業に取り組んできた私たち。鈴木牧場は代表の鈴木敏文と妻のなつきが中心の家族経営の牧場です。なつきは獣医師であり、異なる視点から牛の不調に気づいて声をかけてくれます。病気にならないための予防を徹底することで、鈴木牧場の牛は日々健康的に暮らしています。「食べ物で牛の状態がこんなに変わるのなら、人間も同じように良い物を食べると身体も変わっていくのではないだろうか」と期待している。近い将来、子どもの学校給食でもオーガニック牛乳を提供できれば！という展望も抱いている。

【鈴木敏文プロフィール】

牛120頭と放牧・循環型酪農を経営。2008年に家畜伝染病が発生し、多くの牛が命を落としたことをきっかけに、「病気にならないための飼育」を徹底。牛を第一に考えた循環型酪農のもと、持続可能な農業に取り組む。2014年に全国青年農業者会議で農林水産大臣賞受賞。2020年にサステナアワード2020実践賞受賞。2021年、日本唯一「生乳・牛肉・鶏卵のオーガニック認証」同時取得。2023年、日本第一号「グラスフェッド認証」取得

【取材依頼・問い合わせ先】

鈴木牧場 代表 鈴木敏文までご連絡ください。

〒089-2446 北海道広尾郡広尾町紋別16-14-5

電話：090-5075-5586

メールアドレス：toshi5778master@gmail.com